

(様式 1-3)

## 福島県 (大熊町) 帰還・移住等環境整備事業計画

### 帰還・移住等環境整備事業等個票

令和 8 年 1 月時点

※本様式は 1-2 に記載した事業ごとに記載してください。

NO.	34 0	事業名	大熊町家賃低廉化補助事業	事業番号	(7) -49-47
交付団体	福島県	事業実施主体 (直接/間接)	大熊町 (直接)		
総交付対象事業費	(99,379 千円) 135,019 千円	全体事業費	(99,379 千円) 135,019 千円		
帰還・移住等環境整備に関する目標					
<p>本町は、令和 5 年 12 月に策定した「大熊町第三次復興計画」において、町の復興が進み利便性が向上してきたことによる各区域や復興拠点への帰還・移住促進。つながりや交流を重視し、暮らしの充実や未来のあるまちづくりを目指すものとしている。</p> <p>大川原地区復興拠点においては、平成 31 年度から帰還に向けたインフラ整備を先行し令和 4 年度の春には町中心部を含む特定復興再生拠点区域の避難指示解除。国・県・関連機関の協力による町の復旧、復興で町施設・インフラの発展が目覚ましく、復興計画を実現するためには町外からの移住者を積極的に増やしていく取り組みが不可欠である。また、町は令和 7 年に「大熊町第三期まち・ひと・しごと創生人口ビジョン」を策定し、令和 16 年度までに町内居住の人数目標を 4,000 人としつつ、移住定住で定める「大熊町移住・定住促進中期戦略」により移住者として町が求めるターゲット層の獲得を目指している。</p> <p>今後は、中期戦略や大熊町移住・定住広報戦略 (以下、広報戦略) を現状に合わせて更新していくと共に、内容に基づき各種施策の企画や立案等を行い、移住定住に係る取り組みを展開していく。</p>					
事業概要					
<p>当町のまちづくりにおいて、移住定住施策等による新規住民の獲得が重要なことは前述の「帰還・移住等環境整備に関する目標」のとおりであるが、町の大部分の避難指示が現在も継続していること等により他市町村に比べ復旧復興事業の負担が大きい状況にあり、移住定住支援の企画検討や展開がマンパワー不足により実行できないと共に、移住者の居住できる住宅が圧倒的に不足している。そこで、令和 3 年度に民間賃貸住宅を修繕、令和 7 年からは事業者が賃貸住宅を整備する補助金を導入し、町内の民間賃貸の修繕件数が増加したことで住居の確保が進みつつある。修繕にかかるコスト軽減し再開を支援することで、家賃相場が高騰しないように町側から働きかけてはいるものの、インフラが整っていない大熊町を移住先として選択するには移住者側へ更に配慮することが必要であり、民間で経営する賃貸住宅へ入居する場合の家賃補助を実施する。また、令和 8 年度よりふくしま 12 市町村移住支援センターによる補助金の統合により以降移住者の家賃補助の受け皿となるが、令和 7 年までに町へ移住した申請者に対する家賃補助は引き続き町で実施することを想定。加えて、既存の町補助金から 12 市町村の補助金へ統合されるにあたり対象外となる 12 市町村内の移住が元々町補助金で認められていたことから 12 市町村の補助金の対象とならない町移住者に対する補助をするものとする。</p> <p>1. 町内の民間賃貸住宅の入居者に対する家賃補助の実施</p> <p>&lt;大熊町第三次復興計画&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・P7 第三次復興計画と大熊町移住・定住促進中期戦略 (広報戦略含む) との関係性</li><li>・P20 (2) 計画の理念 (帰町や移住の促進)</li></ul>					

- ・P37 4章 取り組む施策 柱2暮らしに向けた仕組みづくり (1) 生活・帰町・移住定住支援、(3) 買い物・食事
  - ・P62 4章 取り組む施策 柱5まちへの主体的な関わりを促進する環境づくり (2) 誰でも働きやすいチャレンジしやすい環境づくり
- <大熊町 移住・定住促進中期戦略>
- ・P2 2 移住・定住の位置付け・目標値
  - ・P4 5 取組と実行基盤 (1) 主な取り組み (2) 推進・実行体制
- <大熊町第三期まち・ひと・しごと創生人口ビジョン>
- ・P6 Ⅲ. 大熊町第三期人口ビジョン 2. 大熊町の人口目標

**当面の事業概要**

大熊町へ移住し民間賃貸住宅への入居が容易になるように家賃補助の実施。また、令和5年度に町立学校(学び舎ゆめの森)の新校舎開校に加え、令和6年12月に駅前産業施設の完成したことで、賃貸住宅の需要増加が見込まれることから、実績を考慮し申請の受け皿の用意。

<令和6年度>  
66件(実績) ※令和4年度～令和6年度(12月現在)

<令和7年度>  
現在の実績+令和6年度までの入居実績を基に試算  
令和6年度までの実績66件+令和7年見込み40件(令和6年度のみ(12月まで)申請実績43件)  
申請者家賃実績×12ヵ月 = 20,785,500円 ≒ 20,785,000円  
40,000円(補助上限)×12ヵ月×40件 = 19,200,000円  
申請額合計 39,985,000円

<令和8年度>  
令和7年度までの入居実績で計上。交付金申請後に申請がある可能性があるものについては10件で計上。  
※令和7年度までの実績は94件  
申請者家賃実績×12ヵ月 = 57,840,000円 ×補助率(1/2)  
= 28,920,000円(合計補助額) ※実績94件分  
令和7年度申請見込み = 10件×40,000円(補助上限)×12ヶ月  
= 4,800,000円(見込合計) ※見込み10件分  
令和8年度申請額 = 28,920,000円(実績)+4,800,000円(見込)  
= 1,920,000円(12市町村内移住)  
= 35,640,000円(令和8年度合計)

**地域の帰還・移住等環境整備との関係**

本町においては、東日本大震災及び原発事故により多くの生命・財産の喪失に加え、全町民が避難を余儀なくされており、本町(町及び自宅)へ帰還するまでの避難生活が長期化している。

第三次復興計画において、帰還と移住は町の復興に必須であり、町に関わる方の全てを計画の対象としている。その中で「帰還を選択できる」、「町へ移住したくなる」を実現・推進するためには、復興事業と並行し移住定住の各事業を進めることが重要であり、大熊町を知るきっかけの創出や移住を希望するものの安心や町イメージの向上にもつながる。

**関連する事業の概要**

※効果促進事業等である場合には以下の欄を記載。

関連する基幹事業	
事業番号	
事業名	
交付団体	
基幹事業との関連性	